

## 平成 21 年度コミュニティ・スクール推進協議会 実践発表資料

(ふりがな)	(すぎなみくりつ さんや しょうがっこう)									
学 校 名	杉並区立三谷小学校									
(ふりがな)	(すぎなみく かみいぐさ)									
所 在 地	東京都杉並区上井草 3-14-12									
電話番号	03 (3390) 0164			FAX 番号		03 (3390) 0271				
学級数										
児童・生徒数										
教職員数	28 人		学校運営協議会を置く学校として指定された年月日				平成 17 年 4 月 1 日			
学校運営協議会の委員数・構成	12 人		内 訳		地域代表 8 人、保護者代表 0 人、教職員 1 人、 大学教授等有識者 3 人					
	学校運営協議会代表者（会長等）：学識経験者、元学校評議員									
その他	・地域代表として選出されている委員の中に、現役の保護者 4 名が含まれている。									

（平成 21 年 6 月 23 日時点）

### I 学校運営協議会設置までの経緯、設置後の改善状況

#### 1. 「学校運営協議会を置く学校（コミュニティ・スクール）」指定前の状況

- 町会の力が強く、地域住民の学校に対する思いは非常に高かった。  
その一方で、思いは強いものの、学校を支援する活動全体が整理されておらず、特定の人による活動が中心だった。

#### 2. 学校運営協議会の設置を決めた理由

- 当時の校長の「なんとか、子供たちのために地域の力を学校に効果的に注入したい」という思いに、三谷小学校に学校評議員として協力をしていた現・学校運営協議会会長が共感したことから、地域の力を学校に注入できる仕組みである学校運営協議会の設置を目指すこととなった。
- 法制化された学校運営協議会制度を活用するというより、選ばれた地域住民が公式な場で協議できる機会を使って、地域内外に誇れる日本一の学校を目指したかったから。
- 強いて挙げるならば、これまで校長に権限がなかった「教育委員会に対して、教職員の人事に関する意見ができる」という学校運営協議会制度に、大きな期待があった。

#### 3. 学校運営協議会の設置方針の決定後から設置までの課題とその対応状況

- 学校運営協議会委員の選定  
⇒ 既存の町会の重鎮に事前に話を通し、理解を頂いたうえで、重鎮を外した町会の若手メンバーで構成することとした。

#### 4. 学校運営協議会が学校や教育委員会に対してこれまでに提案してきた主な意見等

##### 【学校運営の基本的な方針に対するもの】

###### ○【学校に対するもの】

学校運営の明確な目標を設定すること。

ありがちな校訓のような単に言葉遊びにならないように、目標に偏りや拘りをもたせること。

###### ○【教育委員会に対するもの】

特に具体的な意見は出されていない。

##### 【学校運営に関する事項に対するもの】

○ 学校運営協議会委員と教職員とのコミュニケーションの場をつくること。学校運営協議会は学校の味方であることの認識を促進すること。

○ 学校運営協議会に対する学校課題（学校にとって都合の悪いこと）の報告、相談、連絡を促進すること。

###### ○【杉並区教育委員会に対するもの】

杉並区の学校運営協議会のモデル校であることを理解してもらい、学校行事および学校運営協議会のイベント等の広報の要請、学校予算への用途に関する規制を緩和してもらうこと。

##### 【学校の職員の採用その他の任用に関する事項に対するもの】

任命権者である都教育委員会に対して具体的に意見を出すには至っていないが、以下の要望が行われた。

○ 学校長および杉並区教育委員会は、早期に教員情報の収集を行い、学校運営協議会との意見交換を行う。

○ 学校運営協議会と学校経営者（校長、副校長）との定期的な教員の育成状況の確認を行う。

#### 5. 学校運営協議会が提案した意見を踏まえた、学校や教育委員会の具体的な取組

##### 【学校運営に関すること】

○ 校長や副校長は、定期的に学校運営協議会の中で、学校の明確な方針をプレゼンテーションし、ディスカッションを行うこととしている。

○ 定期的な非公開会議で、学校課題を報告し意見を交換することとし、対処できる範囲で学校運営協議会が課題解決を行うこととしている。

##### 【教育活動に関すること】

○ 学校側が示した強化・集中的な活動（研究発表会等）に関する事前プレゼンテーションや意見交換。

○ 杉並区教育委員会は、我が学校運営協議会のイベントや取り組みを積極的に広報誌等を使って宣伝している。

### 【教職員の任用に関すること】

- 学校長は適宜、人事管理の中長期なプランを学校運営協議会に提示することとしている。

また、学校長および杉並区教育委員会からの早期の教員情報の収集を踏まえた学校運営協議会との意見交換を行っている。

## 6. 学校運営協議会の設置後に感じられる変化（成果）

### 【学校（教職員）側】

- 学校運営協議会における図書部会、イベント部会、あいさつ部会などの部会活動（個別の部会会議、実作業）を通じて、教職員と学校運営協議会委員との信頼関係が築かれた。
- 教職員から学校現場に関するポスターセッション（グループ別のプレゼンテーション）を通じて、学校運営協議会委員の教職員に対する現場理解・現状認識ができたと同時に、教職員は現場を委員や地域から理解してもらえたという安心につながり、結果的に、信頼関係が生まれた。
- 学校行事以外の地域行事（PTA祭、土曜日活動、学校運営協議会活動など）に、教職員が少しずつに参加するようになった。

### 【教育委員会側】

- 特になし。

### 【園児・児童・生徒側】

- 他地域の教育委員会、学校、メディア等の訪問・視察・取材などにより、外部から見られているという環境から、児童の人前での振る舞いに緊張が少なくなった。大きなイベントでも常に、平常心で臨めるようになった。

### 【保護者側】

- 学校運営協議会議、学校運営協議会フォーラム、広告媒体等を通じて、地域活動に少しずつ、興味をもってくれるようになった。

### 【地域側】

- 学校運営協議会議、学校運営協議会フォーラム、広告媒体等を通じて、地域活動に少しずつ、興味をもってくれるようになり、直接的な支援活動を行ってくれる人が少しずつ増えてきた。

## 7. 学校運営協議会の設置後に抱えている課題

- 地域の若手人材の確保、ネットワーク拡大。

## 8. 上記7の課題の解決に向けた今後の取組予定

- 地域の若手人材への地道な声掛け。紹介を通じた交流。

## Ⅱ 学校運営協議会の実際の運営状況等

### 1. 学校運営協議会の運営状況

(平成20年度実績：年13回開催)

回	年月日	議 題 等
1	H20. 4. 22	今年度のCS活動方針、計画
2	5. 27	学校支援・地域共生本部の進捗状況と今後のあり方
3	6. 26	予算検討、さんやごよみの最終確認、三谷祭参加について
4	7. 29	支援本部連絡会の報告、児童の一学期の様子から
5	8. 26	CSフォーラム参加報告、「楽食さんやすくすく計画」について
6	9. 16	文科省からの予算措置の件、こらボードにそった支援状況について
7	10. 21	研究奨励校発表会の内容について
8	11. 26	研究発表会の成果、谷川俊太郎さんを招いての読書会について
9	12. 16	新教育課程への移行に向けて、CSフェスタでの表彰者について
10	H21. 1. 28	CSフェスタのプレゼンと絵本作家の講演内容について
11	2. 23	CSフェスタ最終確認、新年度教育課程の承認
12	2. 28	CSフェスタ開催
13	3. 17	今年度の活動評価と新年度計画

(補記)

- 毎回の会議後半には研修時間を設け、学校運営協議会議に参加した者が豊かに、そして刺激をもらえる場になるよう工夫している。
- 教員人事については公開の場では行わず、委員のみの会議で話し合う。

### 2. 学校運営協議会に関する基本情報等

○ 学校運営協議会を置く学校としての指定期間（年数）※規則上

4 年

○ 学校運営協議会の委員の任期（年数）※規則上

2 年

○ 学校運営協議会の委員の改選方法の工夫

地域代表の委員について、世代のバランス（年代、男女）を配慮するようにしている。

○ 学校運営協議会の議事内容の公開状況

議事の傍聴を認めている公開の協議会については、小学校ホームページ（HP）、学校運営協議会の独自ホームページにて議事録を公開している。

3. 学校の教育活動に協力する仕組み（PTA、学校支援地域本部事業等）との連携状況

- 組織的には、学校運営協議会の下に、学校支援地域本部を設置し、学校支援地域本部とPTAはバランスを保ちながらオーバーラップさせている。

4. 学校運営に対する意見を聞く他の仕組み（学校関係者評価、外部アンケート等）との連携状況

- 特になし。

5. その他

平成21年度  
コミュニティ・スクール推進協議会

分科会協議

東京都杉並区  
三谷小学校

平成21年8月3日  
三谷小学校学校運営協議会  
会長 中竹竜二

本日の流れ

- 0. 一番、大切なこと
- 1. コミュニティ・スクールの設立背景
- 2. 活動の基本的な考え方
- 3. これまでの経緯
- 4. 活動の概要
- 5. 初年度の活動内容
- 6. 5年目の心構え
- 7. 三谷CSの理想的な姿

0. 一番、大切なこと

- 学校運営協議会制度は「制度」である
  - 「制度」で万能ではない。単なる「道具」。
  - 道具は、使い方次第。薬も同じ。
- 「理屈」と「理屈ではない」部分の理解が必要。
  - 理屈＝制度としての機能(盲点あり)
  - 不理屈＝雰囲気、なんとなくの感覚(実は大切)
- 「マスト」と「ネバー」をきちんと理解する
- そもそも、課題を解決することは大変。
  - (たかが、月一回2時間の会議)
- 構えず素直なスタンスで臨むこと。

1. コミュニティ・スクールの設立背景

- (1)未知の世界
  - コミュニティスクールの実施は、誰もが(行政も、学校も、地域も)はじめての試みで、何をやったらよいかわからない状態。
- (2)設立きっかけ
  - 校長の強烈なリーダーシップ。子供たちのためにやりたい！という強い思い。それに、会長が口説かれた。(制度云々の問題)
  - 個性豊かな教職員。ただし、反対派も多数。
- (3)地域の潜在力
  - 既存の地域活動自体は盛ん。ただし活動がきちんと整理されてはなかった。
  - 「さんや祭(PTA祭)」「三谷サタデー」の実績。PTA、三谷パドレス(おやじの会)、三谷小学校同窓会、三谷小学校PTA野球部。
  - 近隣に都立農芸高校、都立杉並工業高校、早稲田大学ラグビー蹴球部があり交流が活発。上井草スポーツセンターがあり、スポーツ活動が盛ん。
- (4)学校の概要
  - 小規模学校(学級数:12、児童数:392名、教員数:20名(校長・教頭各1名、担任12名、専科、音楽、図工、少人数算数、養護、講師各1名))

2. 活動の基本的な考え方

- (1)活動テーマ
  - 自信と誇り = 「個」は自信を、「組織」は誇りを
  - \* 第一回会議、会長の独断で決定
- (2)基本姿勢
  - モデル校としての責任。成功活動だけでなく、失敗も成果も発信。
  - 形式にこだわらず、自由に考え、発言する。
  - 走りながら、考え、即、実行する。
  - 無理せず、できることから、こつこつと。
  - 上から目線にならない!(反面教師)
- (3)協議会の位置づけ・役割
  - 学校の応援団
  - 多様な視点での(教育方針、人事、予算)諮問機関(→無視!)
  - 学校と地域とのネットワーク
- (4)基本目標
  - 学校の現状理解
  - これまでの地域の活動を整理
  - 地域の人材を活用するための仕組みづくり

3. これまでの経緯

- ■初年度
  - とりあえずやってみる。走りながら考える。
    - \*実際は、委員本人たちも良いか悪いかわかっていなかった
  - 規約に反して、地固め。諮問機関ではなく、実働部隊へ。
  - 学校現場を知る。ポスターセッションで、劇的に変化。
- ■2年目
  - 教職員からの信頼を得る。一緒に部会活動をやる。
- ■3年目～4年目
  - 保護者(PTA)、地域を巻き込む。
  - 地域支援本部を立ち上げ、実働部隊を移行。
- ■5年目
  - 諮問機関として、本来任務(教育方針、人事、予算)に集中。

## 4. 活動の概要

- (1)協議会の頻度と時間帯
  - 頻度: 月一回(完全公開)
  - 時間: 原則、毎月第1火曜日19:00~21:00。
  - その他: 毎回、終了後、非公開会議あり。
- (2)参加メンバー
  - 委員: 12名(学校長1名、校長推薦委員5名、学識経験者3名、公募委員3名)\* 年度により若干変更。**人選が最も重要。**
  - 教員: (最初は強制) 全員参加 → ローテーション参加へ
  - 協力者: 近隣の学校関係者、区の補助教員、大学生、地域住民、PTA関係者など
- (3)協議の形式と流れ
  - 原則、議題に沿った議事進行
  - 参加者が同じ立場で、自由発言可能な議事進行
  - 部会活動報告中心 → 本来任務協議(ワークショップ型)へ

## 5. 初年度の活動内容

- (1)あいさつ部会
  - 目的: 子どもが安全に安心して過ごすことができる地域作り
  - ・ 活動内容①: 保護者対象「あいさつアンケート」の実施
  - ・ 活動内容②: 「あいさつポスター」の作成と掲示
- (2)図書部会
  - 目的: 「他のどこにもない図書館をめざして」子どもの居場所そして、地域の人も活用できる図書館づくり
  - ・ 活動内容①: 読まれない本の整理
  - ・ 活動内容②: 三谷祭での「読んでほしい本」の寄贈と寄付。
  - ・ 活動内容③: 先生・委員・地域図書館・ボランティアの準備室。
- (3)情報発信部会
  - 目的: より多くの人に三谷コミュニティスクールを知ってもらう
  - ・ 活動内容①: 独自ホームページの立ち上げ(<http://www.sanya-cs.jp>)
  - ・ 活動内容②: 関連団体の各種会合での告知
- (4)イベント部会
  - 目的: 三谷コミュニティスクールの情報発信の場づくり
  - ・ 活動内容①: CSフォーラム平成18年3月11日(土)、成果発表会

## 初年度の課題と対応

- 「CSって何？」
  - 教員=CSの悪いイメージ(=校長首切り、教員評価(敵対意識))
  - 地域・保護者=CSの認知の少なさ(=制度が多すぎる! よくわからない)
- 三谷CSのネバー
  - 信頼を掴むまでは偉そうなことを言わない
  - 学校経営方針、教員評価は控える
- 「じゃあ、どうする？」
  - 部会活動。一緒に作業、議論をする場。
  - CSフォーラム! 「なんとか、知ってもらおう!」

## 6. 5年目の心構え

- 背景: 4年目からメンバーが多数変更。

### 「基本スタンスの再確認」

組織づくりで、最初に、必要なのは、

### 「現状把握」

知ったかぶりをしない、その場で、質問

### 「時間共有+空間共有」

(理屈であり、理屈ではない)

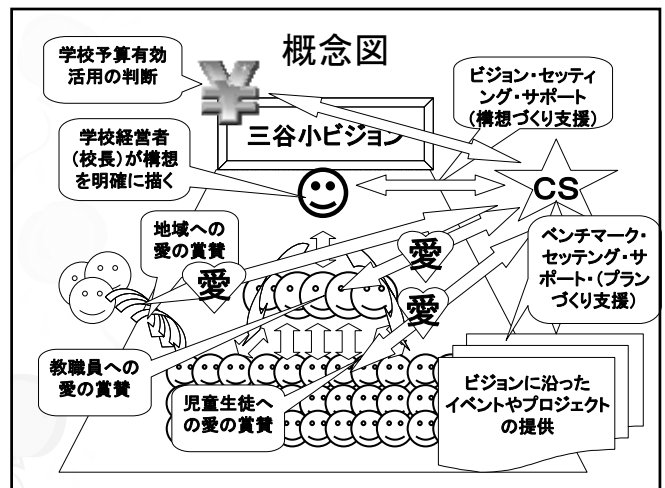
=今回のフォーラムには、8人の委員が参加!!

### 「思考思想共有」

## 5年目第一回会議での議事 「三谷CSの仕事のおさらい」

### Q1. 三谷CSの仕事は?

- (1) 学校経営(教育方針)に関する意見  
→ 経営者の構想づくり支援  
(ビジョン・セッティング・サポート)
- (2) 教育人事に関する意見  
→ 愛による賞賛  
(良い取り組みの拾上げ認知拡大)
- (3) 学校予算に関する意見  
→ 有効活用および方法の支援



### (1). 学校経営(教育方針)について

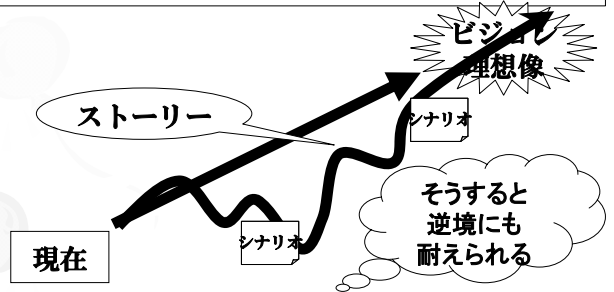
■学校経営(教育) → 一年間のビジョンを描き、  
→ 経営者の構 ストーリー書き、シナリオをはめる!  
(ビジョン・セッティング・サポート)

[校長、副校長に対して]

1. 児童をどのようにしたいか?
2. 教職員をどのようにしたいか?
3. 自分がどのようになっているか?
4. そのための具体的なプランは?
5. プランに対するベンチマークは?
6. 学校のこだわりは?  
⇒2008年度「研究発表会＝よみとく力」

ビジョン、ストーリー、シナリオをイメージする＝未来を考える

ビジョンには  
わくわく感が必要!!



### (3) 学校予算有効活用の評価

- ・ 1. CS 予算計画策定  
- 幅広い視野で前倒しの計画
- ・ 2. CS 予算ならではの用途  
- 消費財にしない方針
- ・ 3. 費用対効果の検討  
- CS の活動推進に寄与したか?

### 7. 三谷CSの理想的な姿

目指すは

コミュニティスクールの  
**積極的な解散**

～制度なくとも、自律的持続的な活動ができる学校へと発展～

以上